

2026

各回開始30分前

濡れた砂 10:30~12:01 (91分)

川にふ 13:00~15:00 (120分)

伊豆の踊子 15:40~17:02 (82分)

中島ひろ子 つみきみほ 他

櫻の園 17:40~19:16 (96分)



熊井啓

栗原小巻 他

入場料(前売·当日) 1本 500円 /2本 800円 /3本 1200円 /4本 1600円 さくら倶楽部ご招待対象公演 /障がい者割引20%OFF(チケット購入時手帳提示) 11/10(月)よりアルカスホールにてチケット発売開始 窓口9:00~ 電話予約13:00~(3日前までに精算)

寝屋川市立地域交流センターアルカスホール TEL:072-821-1240

受付時間/9:00~21:00 〒572-0837 大阪府寝屋川市早子町12-21

FAX:072-821-1241 E-mail: arukas-info@astem-co.co.jp 京阪電車 寝屋川市駅より徒歩約3分

主催:指定管理者 株式会社アステム/国立映画アーカイブ

特別協力:文化庁/一般社団法人日本映画製作者連盟/全国興行生活衛生同業組合連合会/松竹株式会社/東宝株式会社/ 東映株式会社/株式会社KADOKAWA

八月の濡れた砂 [1971年 日活] (カラー/シネマスコープ/モノラル/91分)

[スタッフ] 脚 // 本・監督 部・監督 を が が が が が が が が が が が が が が が が が が	峰大藤萩大古むペチ 尾和田原西山つペ葉 三竺八治津夫し で 和 の で で で で で の の の の の の の の の の の の	[出野西川稲三 亀井五神演健清 司子苗紀 井手郎父 まままま おままま おままま かんしゅう おいま おいま かんしゅう おいま かんしゅう おいま かんしゅう おいま かんしゅう かんしゅう おいま かんしゅう おいま かんしゅう かんしゅう かんしゅう かんしゅう かんしゅう はいま	村広中隅テ藤渡地山原野瀬沿田サの東近日が東田が田がみ文武初芳年野ど雄男男雄田り
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------

揺れ動く若者の行動と心理を硬質なタッチで瑞々しく描いた青春映 画の名作であり、藤田敏八監督の初期の代表作である。主人公たち の〈大人〉に対する不信と反抗の姿勢は、この種の映画に特有なも のであると同時に、学生運動などで大きく揺れ動いた1960年代後半 の時代の気分を色濃く宿したものと言えるだろう。ただその描写が反 抗礼讃、青春万歳の紋切り型ではなく、優しさと残酷さの入り混じっ た、青春という名の一季節を、静かに見つめている点にこの監督の 特徴がある。1950年代の『太陽の季節』とはまた別の、湘南の眩しく 気怠い夏がスクリーンに溢れている。製作会社の日活はこの年を もって一般劇映画の製作を中止し、ロマンポルノへと移行したが、本 作は青春映画を看板としてきた同社の光芒を放つ一本として「キネ マ旬報」ベストテン第10位に選ばれた。

忍ぶ川 「1972年 東宝=俳優座映画放送」(白黒/スタンダード/モノラル/120分)

[スタッフ] 原作 脚本・監督 撮影 照明 録音	三浦哲郎 長谷部慶次 熊井啓 黒田清巳 岡本健一 太田六敏	[出演者] 哲郎 志乃 哲郎の父 志乃の父 香代 哲郎の母	加藤剛 栗原小卷 永田靖 信欽三 岩崎加根子 滝花久子
録音 音楽	太田六敏 松村禎三	哲郎の母 木村幸房	滝花久子 滝田裕介
美術	木村威夫	次兄	井川比佐志

三浦哲郎(1931-2010)の自伝的な同名小説(第44回[1960年下半期]芥川賞)を映画化したもので、『帝銀事件 死刑囚』(1964)や『日本 列島』(1965)などの社会派映画の監督として名を馳せていた熊井啓 監督が、長い準備期間を経て完成させた恋愛映画の秀作。兄の失 踪や姉の自殺などを経験して暗鬱な家庭環境に育った東北出身の 大学生・哲郎と、深川の洲崎パラダイスにある射的屋で育ち、今は 料亭"忍ぶ川"の仲居として働く志乃の純愛物語。二人が出会い、互 いの心の闇を打ち明けて信頼し合い、そして幾多の障害を乗り越え て結婚にいたるまでの過程が、叙情的なモノクロームの映像で描か れる。主演の栗原小巻が、優しさと芯の強さをあわせ持つ女性を熱 演して高く評価された。「キネマ旬報」ベストテン1位。

伊豆の踊子 [1974年 東宝=ホリプロ](カラー/シネマスコープ/モノラル/82分)

[スタッフ] 原脚監撮照録音美物 という おいまま おいまま おいま おいま おいま おいま おいま おいま おいま かいま かいま かいま かいま かいま かいま かいま かいま かいま か	川若西萩高木高佐東光克憲正暎弘晃成夫己治博二	[か川栄千の百およ鳥福茶ナ演る 子 子み子 屋田屋レーのでは、	山三中佐一四石宗江鈴浦宇口浦山藤の方川方戸木辺野百友仁友宮正さ奈家ヒ粂重恵和、美あ美ゆ美猫早子吉のり、ハツイ
--------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------	---------------------------------	--------------------------------------------------------

青春小説の名作として知られる川端康成の同名小説の映画化。田 中絹代と大日方伝が主演した、五所平之助監督の松竹作品(1933) を第1回として、これまでに全部で6回映画化されている。踊り子を演 じたのは、美空ひばり、鰐淵晴子、吉永小百合、内藤洋子らで、いず れもその時代の青春スターであった。本作の特徴は、五所作品と同 じく、旅芸人たちの社会的な位置を明確にしている点にある。その視 点はラストの印象的なストップモーションからも見てとることができる だろう。西河克己監督にとっては、1963年の吉永小百合主演作品に 次いで2度目の映画化であった。山口百恵は1970年代のアイドル歌 手で、絶大な人気を誇っていた。相手役となる一高生役は公募され、 まだ無名だった三浦友和が抜擢された。この後二人は「百恵=友 和」のゴールデンコンビとして12本の作品で共演し数々のヒット作を 放ち、1970年代青春映画に大きな足跡を残した。

櫻の園 「1990年 NCP=サントリー」(カラー/アメリカン・ビスタ/モノラル/96分)

[スタッフ] [出演者] 原作 吉田秋生 志水由布子 中島ひろ子 脚本 じんのひろあき 杉山紀子 つみきみほ 監督 白島靖代 中原俊 倉田知世子 撮影 藤沢順一 城丸香織 宮澤美保 照明 金沢正夫 久保田麻紀 梶原阿貴 録音 林大輔 三野輪有紀 大町真由美 選曲 石井ますみ 平井和代 白石美樹 美術 稲垣尚夫 戸田麗子 後藤宙美 内田哲也 坂口 上田耕一 岡本舞 里美先生 中村先生 南原宏治

桜の咲く頃、学校創立記念日の恒例行事としてチェーホフの戯曲 「桜の園」を上演しようとする女子高校の演劇部。原作である吉田秋 生の漫画作品ではそうした演劇部員たちの春夏秋冬を描いている が、その映画化にあたって中原俊監督らはドラマを「桜の園」の開演 前の2時間だけに絞り、部員たちの行動や心理的なざわめきを多層 的に描く群像劇に作り上げている。登場人物のほとんどが女子高校 生という設定もさることながら、主要な人物だけでなく脇役の部員た ち一人一人にまで存在感を際立たせたじんのひろあきの脚本、そし て中原監督の新境地とも言える集団的な演出法も斬新であった。つ みきみほ、中島ひろ子といった若手女優の好演もあって各方面で高 く評価されたこの作品は、その年の「キネマ旬報」ベストテンの第1位、 監督賞、脚本賞ほか多くの賞を受賞し、現代日本映画の名作として の地位を獲得している。

寝屋川市立地域交流センターアルカスホー

〒572-0837大阪府寝屋川市早子町12-21 TEL072-821-1240/FAX072-821-1241 メールarukas-info@astem-co.co.jp



●アルカスホールに駐車場はございません。公共交通機関のご利用をお願いします。

●自転車200円/原付バイク300円※8時間毎(最初の1時間無料)







